【事業名】邑楽館林地域クビアカツヤカミキリ対策事業
（群馬県館林市）　【団体名】邑楽館林地域クビアカツヤカミキリ対策協議会

令和２年度　生物多様性
保全推進支援事業
実績報告書別紙１０－６

事業の背景・目的

サクラ等の樹木に被害を及ぼし、広域に渡り拡散する恐れのあるクビアカツヤカミキリの防除を邑楽館林地域で連携して推進し、ネット巻きや薬剤による防除が困難な被害が中程度以上の樹木について、**伐倒**を行い**被害拡大を防止**する。

また、地域住民向けの「**伐倒見学会**」を開催し、被害状況を観察することや被害レベル特定の精度を高めるための「**マニュアル**」を作成し、クビアカツヤカミキリがもたらす影響を周知することで、被害拡大防止のための**意識向上**を図る。

事業の内容

平成３０年度に本協議会を発足し、防除対策及び情報共有を図っている。しかし、館林市と邑楽郡５町の**被害本数**は、平成２９年度では６７７本であったが、**３年間で**３，６７３本と**５倍以上**にまで膨らんでいる。令和２年度は、中西部の高崎市、桐生市、伊勢崎市、みどり市にまで広がっており、被害は増加の一途を辿っている。

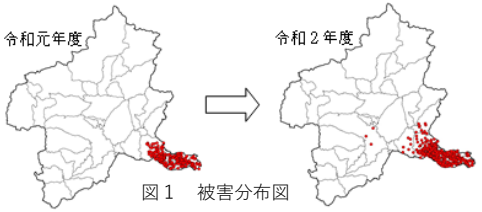

図１　被害分布図

このような状況の中、本協議会では、樹幹注入や成虫の捕殺、ネット巻き等による対策を総合的に講じることで被害の封じ込めを図っている。しかし、**被害が中程度以上の樹木**に対しては薬剤を用いた対策の効果が低く、現状、**伐倒以外の対策が確立されていない。**

本地域では、被害が中程度以上の樹木が多く、被害の増加に歯止めがかからない状況にある。

そのため、総合的な対策の一つとして伐採による対策も平行して実施することや、地域住民に対する**防除意識向上**のための「**伐倒見学会**」により、地域全体のクビアカツヤカミキリの生息密度の減少を図る。

得られた成果

令和２年度事業として、本地域における被害が中程度以上のサクラ**５０本を伐倒**した。その中で、「伐倒見学会」を開催し、計50名以上の住民に対し、**防除意識の向上**やクビアカツヤカミキリがもたらす影響の**周知啓発**を図った。

しかし、未だ放置されている被害木を発見・対処するためには、更に周知啓発を徹底してくことが必要である。その一つとして、被害レベルの特定について、精度を高めるための**マニュアルを作成**した。これにより、被害レベルに応じた具体的な対策に期待できる。

また、今後は被害の拡大を封じ込めるために伐採を含む総合的な対策を継続すると共に、**高校と連携**を図りながら本地域一丸となった防除体制づくりと対策方法の研究を平行して進めていく。

（写真）伐倒見学会の様子